



2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9	8	7	6	5	4	2	ページ数
3	2	1	0	9	8	7	6	5	4	3	2	1	1	0	9	8	7	6	5	4	2	
編集後記	渡部	ロス	ライ	村田	ミッドフォード	古川	藤田	尾藤	久野	長峯	中野	トラン	園田	ゴッティンガー	久保田	鎌田	加藤	片寄	今井		この本について	
	(敬称略)																					

インタビュー企画
「ゼミ選びのための参考書」

次回 discord 第三号㊦にて掲載予定（変更の可能性あります）
 安保、今泉、グリーン、陣内、関根、ソーヤー、中條、高畑、長谷川、福田、細見、本田、マーテン、村上（敬称略）
 鈴木先生、ラドル先生についてはインタビューできないので掲載しない予定です。
 アーピング先生、デキキス先生に関してはまだインタビューが出来ておりません。
 お忙しい時期だと思ますし、インタビューできない可能性が高いです。御理解ください。

この本について

自分を設計 ゼミ選び

この本はゼミの魅力、先生の魅力をインタビューすることによって最大限引き出そうというコンセプトと、ゼミでやっていることが目に見えてくるような具体的な事象を掲載するというコンセプトで作られた本です。出版した時期がちょうどゼミ選びの時期ということで、二回生の方がゼミ（研究演習）を選ぶ際の役に立てばというのがありますし、一回生、三回生、四回生、教職員の方が読んで、総政のこのゼミではこんなことをやっているのかという交流にもなればと思います。

これを読めばズバーっと自分の道が開けるというものはないと思いますが、参考にできるものを挙げておきます。

あと先生と会ったりするときの注意とかも挙げておきます。

<<参考にできるもの>>

- * SCSのゼミ選びの冊子（ゼミシンポで配られたもの）
- * 個別相談会（ニュースグループ「KSC - Office」にて日程を閲覧可能）
- * ゼミのシラバス（ニュースグループ「KSC - Office」にて閲覧可能）
- * 先輩の話（個人的なつながり、今年から内容が変わるゼミもあります。注意してください）
- * 先生に話を聞く
- * ゼミに出てみる（事前にアポイントを取って行きましょう）
- * ゼミにどんな人間が集まりそうか。
- * そのゼミが何曜日に開講されそうか、それに伴ってどの授業が取れなくなりそうか。
（もちろんゼミの曜日は毎学期完全に一緒というわけではありませんからご注意ください）
- * ちょっとだけ、この本「discord」

勉強する内容を重視するか、ゼミで出来る友達や先生との相性を重視するか、もっと他の条件で選ぶかはその人しだいだと思います。あと、もちろん先輩と一緒に活動することもあると思いますが、結局はそのゼミの雰囲気を作っていくのは新しいゼミ生だと思うのでそういう意味でも

今年のゼミは今年のゼミ生で作っていきましょう（基本的には）。

これらのことを踏まえて、ゼミを考えましょう。最後にこの本の内容についてはもちろん厳しくチェックしていますが、間違いが含まれているかもしれません。そうでなくても、今年のゼミが去年と同じ事をするとは限りませんし、同じ場所にゼミ旅行に行くとは限りません。必ずシラバス等で確認してください。（文面等が分かりづらい点は申し訳ないと思います）

自分の行くゼミについては自分の力で調べて、自分で決定してください。

そういう意味で、この本はゼミ選びの参考書なのです。

“Zemi ist tot.”

頭に「ニ」の着く有名な哲学者が「神は死んだ」と言いました。

欧米においてはキリスト教の影響というのは計り知れないものがあり、キリスト教的な道徳が価値判断の基準となることが多々あるようです。彼の時代においても、多くの人が、キリスト教的世界観をよりどころにして生きていたのです。さて、そのような時代に「神は死んだ」などと唱えることは、自らを社会の異端とする危険があるわけです。にも関わらず、「神は死んだ」と言わねばならなかったのは、なぜでしょうか。それは、キリスト教的世界観が来世の幸福を約束するものだからです。では、なぜ、来世の幸福を約束することがいけないのでしょうか。それは、現世を否定するからです。本当に尊いのは現実の世界であって、現実の世界を懸命に生きることこそが正義であると、彼は考えていました。それゆえ、来世の幸福を約束する神は「死んだ」と言わねばならなかった訳です。(HPより)

この雑誌の中で、「ゼミは死んだ」という文字が躍っておりますが、ゼミの先生や、現在ゼミに所属する方々を中傷する意図はまったくありません。この言葉を解釈するとするなら、「このゼミに入れば救われる」とか、「このゼミに入れば何かを教えてくれる」とか、「このゼミに入れば就職できる」というような価値観に基づくゼミ選びは死んだということが言えるのでしょうか。新しいゼミを構成するのは自分自身なのです。自分のモチベーションや、気の持ちようでゼミの雰囲気なんていうのはすぐ変わってしまうものだと思います。

またゼミ自体も、わずか二年間。就職活動の時期を除くと一年ちょっと。その時間の中であまりに大きなことを要求するのは無理と言うものです。いかにこの短い時間の中で自分を見失わずに、多くのものを学び取るか。それはゼミからでも、ほかのことからでもいいと思います。人生におけるほんの一部(人によっては就職する前の最後のモラトリアムともいえますが)である二年間において、絶対的価値観としてのゼミというものが死んだと考えるのも一つの手でしょう。ゼミは絶対のものだ(選ばなくてはいけない、学ばなくてははいけない)というのはなんだか変な感じがします。

いずれにせよ学生にもっと考えてほしいという意図があります。ゼミ選びは自分を設計することだと思います。自分が今後どういうことを学んでどういう自分を創り上げていきたいのか、それに向けて何が足りなくて、それをどう補っていけばよいのか。そのための一つ的手段としてゼミがあったり、先生や友人との出会いがあったり、残りの学生生活があったりすると思います。自分の興味や関心やライフスタイルに合ったゼミを見つけて、より良い自分を作れるように、それが結局総政全体にいい影響を及ぼすように、そういう意味をこめて「ゼミは死んだ」と述べたいと思います。

最後に残り僅かな時間ですが、二回生のみなさんは色々な選択肢を踏まえて、ゼミ選びをなさいますよう、しっかり準備をして個別相談会に臨みましょう。

今井ゼミ

生態(文化)人類学的視点と方法を踏まえつつ、人間社会と自然環境が織り成す関係を探ります。

どんな人に来て欲しいか

- ・研究演習シラバスに示したキーワードの何らかについて深く勉強しようという意欲がある方
- ・フィールドワークを希望する方
- ・エコファームで何か作業してみたい方
- ・研究室に顔を見せに来て下さい。

どんなことをしましたか? (今年も同じ事をするとは限りませんが、詳しくは今年のシラバスをご覧ください)

普通の授業形態：文献購読と発表

授業の一環としての旅行・エコツアー

白神山麓マタギツアー(6月)来年度未定(ネパールに行く可能性もあり) エコツーリズムの会議

学園祭での出店(神戸三田キャンパスと上ヶ原キャンパス)

リサーチフェアでの研究発表：「エコツアー」「獣害問題」「都市の街路樹」

エコファームで野菜・果実の栽培

飲み会、食事はゼミ全体としては行っていません。

現ゼミ生が興味を持っていること (あくまで一例です。ゼミ生は毎年カラーが違います)

「ブラックバス問題」「捕鯨問題」「森林と人間」など

この本だけは読んでおいてほしいという本 (先生の書かれた本「パピルス」は読んでおくといいたいです)

文化人類学関係の本 『パピルスの賦』

貧困の克服 - アジア発展の鍵は何か? - アマルティア・セン

過去の論文タイトル (あくまで一例です。およその目安にしてください)

「棚田保全への模索」

「東・東南アジア地域における識字と初等教育」

その他

シラバスの「研究内容」というところをみるとゼミでやっていることがもっとよく分かると思います。そこを見てみてください。以下シラバスの一部です。

文化人類学、環境社会学などの分野で積み上げられてきた研究成果に興味があり、自らも現場に足を運び資料を集めてくれる方を歓迎します。

また、当ゼミ生にはエコファームでの作業を分担し収穫物を味わって頂きます。(今井ゼミ区画で水やり、除草などの軽作業をします。)

片寄ゼミ

本町ラボから地域を考える。

どんな人に来て欲しいか

- ・時間に余裕がある人
- ・片寄ゼミは卒論を重視します。
- ・卒論のような自分の研究には何も生産できない時間が多く必要になります。

どんなことをしましたか？ (今年も同じ事をするとは限りません、詳しくは今年のシラバスをご覧ください)

ゼミ合宿シルク温泉丹東町

卒業論文を印刷して販売

木曜の夕方に本町ラボで3回、4回生合同ゼミを行う

商店街にはいろいろな業界のプロがいる。彼らとの交流により学生は成長する。

RFには自主的に参加

飲み会は多い。(ゼミの後など)

現ゼミ生が興味を持っていること (あくまで一例です。ゼミ生は毎年カラーが違います)

子供と図書館 エコステーション 空き缶回収 市場 豆腐屋研究 龍野の町おこし プレイパーク

太閤下水 大阪の船場再生計画 ポーリズの建築 中学生のトライやるウィーク 千刈キャンプ場 アートイベント

この本だけは読んでおいてほしいという本 (先生の書かれた本ぐらいは読んでおくと良いでしょう)

「商店街は学びのキャンパス」片寄俊秀

過去の論文タイトル (あくまで一例です。およその目安にしてください)

山口県大島の町おこしについて

市場調査から読みとる茨木市の商店街の実態

ヒッチハイクの技術と精神

絵本に見る家づくりと町づくり

日本の河川行政と流域保全

音楽による街づくり研究

香港映画と中国映画の今後

自治体におけるホームページの役割と展望に関する研究

農山村地域における定住勢力の経緯と展望 - 三田市母子・永澤寺地区の事例から

地方商店街の豊衰経過と再生への可能性に関する考察 - 三田本町センター街の場合

その他

シラバスにはゼミ内で発行している機関紙のことが出ています。ゼミニュース「閑楽停通信」というそうです。詳しくはシラバスを。

加藤ゼミ

不完全であっても未来に向かっての行動原理を考える。

どんな人にきて欲しいか

- ・都市政策に興味のある人。
- ・フィールドを大事にするので体力がある観察能力のある人。
- ・空間的な興味（家の仕組み、都市の構成など）がある人。

どんなことをしましたか？（今年も同じ事をするとは限りません、詳しくは今年のシラバスを見てください）

自分で本を読む。自由課題は、百冊くらいある書籍リストの中から好きな本を選んで、自分の興味の対象を見つける。規定課題として洋書講読。

フィールドの調査。都心の盛り場、さかえまち、都市が自然発生的に変わっていくというダイナミズムを見る。

神戸市北区の大沢（おおぞう）町に農村の見学に。

有志で、イタリアにコンパクトシティーの研究にナポリ、ローマ、ヴェネツィア、メルカテロー。

去年は調査旅行で歴史的町並みの城崎、伊豆、近江八幡へ。

報告書、ゼミでの発表、RFでの発表。学生コンペに応募、梅田北宿の再開発。建築家協会のコンペ、中心のある町。

飲み会はあまりしませんが、食事会は頻繁に行いました。

サブゼミで製図の勉強会をしました。

現ゼミ生が興味を持っていること（あくまで一例です。ゼミ生は毎年カラーが違います）

ファッションタウンの町づくり 大型商業施設の影響 コンビニの動向 屋上緑化 文化施設のマネージメント
住環境 ITの都市生活への影響 バリアフリー 高齢化

この本だけは読んでおいてほしいという本

都市と名のつく本。詳しくは研究室に来たら教えます。

過去の論文タイトル（あくまで一例です。およその目安にしてください）

「大都市・地域ミュージアム」の導入に関する研究

子供の遊び場について

冒険遊び場作りにおける持続的な活動のための運営方針に関する研究

住宅建築に芸術性は成立するか

都市イメージを活用する色彩計画の可能性

市町村合併に関するプロセスの研究

都市部における自転車交通の活用に関する研究

観光町づくりの可能性 ～近江八幡市から学ぶ～

その他

以下、先生のお話の一部です。

都市政策というのは生きている世界そのもので、21世紀の都市の姿、どういう姿が住みやすく、魅力があり、競争力があるのか。都市と農村のバランスのよい生活空間を比較都市論的に考える。

鎌田ゼミ

テーマは「共生の哲学」

どんな人に来て欲しいか

- ・テーマ「共生の哲学」に関心のある人
- ・知的体力・持久力に自信がある人・自信をつけたい人
- ・グループワーク・コンピューターワークが好きな人・好きになりたい人

志望者は鎌田先生の研究室へ行き、先生と自分の関心のあるテーマなどを話しあってください。

どんなことをしましたか？ (今年も同じ事をするとは限りませんが、詳しくは今年のシラバスをご覧ください)

ゼミ合宿 in 奈良 2泊3日

ゼミ合宿 in ドイツ 12月に10日間くらい

4回生は卒論指導のため土曜の一日合宿が多い

OB講師によるスキルアップ企画(コンピューター・文章・プレゼン等)

飲み会はまれでこれをメインに考えてゼミに入るとがっかりします。

食事会はほぼ毎週ゼミの後に行っています。

ゼミではマクロゼミとミクロゼミがあり、週2回の出席が求められます。

他の日、ゼミ生はグループワークをする事が多いようです。

現ゼミ生が興味を持っていること (あくまで一例です。ゼミ生は毎年カラーが違います)

人と人の共生 社会 なぜ現代の社会でコミュニケーションが難しくなるのか？

人と自然の共生 社会問題・環境問題

この本だけは読んでおいてほしいという本 (挑戦してみると良いでしょう)

何でも良いから学術系の本を一冊本気で読んで下さい。

心理学 フロイト 社会学 マックスウェーバー

政治学 ハンナ・アレント 哲学 カント・孔子・ボードリヤール

過去の論文タイトル (あくまで一例です。およその目安にしてください)

「近代社会における貨幣と地域社会」

「それ自体で意味ある行為」をどう解釈するか

現代におけるボランティアと自己実現の関係からハンナ・アレントの「人間の条件」を読み解く

「自己保存欲求の拡張と現代の創造性に関する一考察」

「衣服で哲学する 繋がりの中に生きるために」

「ペットを通して探る現代社会の『幸福』」

「現代におけるアートの役割とその方向性」

「家族研究に対する〈我 - 汝〉関係の有効性 間主観的アプローチとブーバー思想」

「死生観」と「共生」 終末医療ホスピスから「生」と「死」の本質を問う

その他

メインゼミとサブゼミの情報、HP等の情報がシラバス上にあります。チェックしてみてください。

久保田ゼミ

ゼミは自分たち自身が作るもの。

どんな人にきて欲しいか

- ・誰がきてくれてもいいです。
- ・やる気がある人、そして打たれ強い人を歓迎します。

どんなことをしましたか？ (今年も同じ事をするとは限りませんが、詳しくは今年のシラパスを見てください)

本の発表。研究の発表。

フィールドワークは基本的になし。研究するということはどういうことかを知って欲しいです。

三回生は基礎知識を身に付ける、四回生は研究討論をする。

三回生は四回生の授業に出ることを推奨しています。

現ゼミ生が興味を持っていること (あくまで一例です。ゼミ生は毎年カラーが違います)

アジアの通貨危機 インターネットバンキング ユーロ

この本だけは読んでおいてほしいという本

どの本という指定はしないが、一冊は本を読んで欲しい。

過去の論文タイトル (あくまで一例です。およその目安にしてください)

日本バブル経済の歴史と政府の政策ミス ~バブルに浮かれた国民と官僚から~

日本版ビッグバンと金融空洞化の事実

「銀行業」

銀行の歴史的背景と金融危機

不良債権問題への提言

自己資本比率の重要性

ユーロの下落と相場反転の可能性

金融ビッグバン後の信用

日米経済摩擦における日本の貿易黒字削減

その他

シラパスの中「研究内容」の欄に、ミクロ経済や金融論、金融論の課題、通貨制度等に関するとても詳しい説明が書かれています。ぜひ読んでみるといいと思います。以下シラパスに書いてある先生からのメッセージです。

ゼミは、大学における皆さんの研究の中心であり、いわば家のような役割を持つ。研究演習でともに研究し、一緒に苦労する中でよき友人に恵まれることの重要性は、ある意味では研究そのものよりも大きいかもしれない。そのようなゼミの意義を十分に理解した上で参加していただきたい。

Go ttingerゼミ

I would be happy to meet you. I'm always open for talk and conversation.

I consider serious students to develop professional field.

どんな人に来て欲しいか

- ・The person who motivated in the field (Industrial economics)
- ・シラバスに書いてある分野に興味のある人に来て欲しい。
- ・経済に関するバックグラウンドがあることが望ましい。

しかし、それでも勉強したいという学生は研究演習に来てくれたら、追いつくことが出来る。

どんなことをする予定ですか？ (シラバスが公開される前に取材しましたので、必ずシラバスをチェックしてください)

Interactive way not lecture

具体的なテーマ

Network industry

Telecommunications

Media

Information technology

High technology sectors (new economy)

ゼミ内での旅行に関してはまだプランが出来ていません。学生によって変わってくるかもしれません。

この本だけは読んでおいてほしいという本 (シラバスを参考に、たくさんの本が出ています)

The Economics of Network Industries ゴッティンガー先生の書かれた本です。

シラバス上に推薦図書を載せているので参考にしてください。

たくさんの本を出しているのを読んで欲しいです。

その他 (新しくゼミが出来る先生なので個人的な質問をしています。直接ゼミを選ぶ材料ではないと思いますが先生の一面ということで掲載します)

趣味はなんでしょう？

Classic music

Travel

サッカー

出身は？

ドイツ

どこに住んでいますか？

三田市です。私はリトルマンハットンと呼んでいます。自転車か徒歩で学校に通っています。

I like countryside.勉強するのに良い環境だと思います。

今まで行かれた大学を教えてください

外国の大学はたくさんあるので省略。筑波、長崎ではゼミを、名古屋では seminar を持っていました。(僕にはこの二つの違いが良く分からなかったのですが・・・)

園田ゼミ

よく遊び、よく学べ。

どんな人に来て欲しいか

- ・ 協調性、自主性、独創性のある人
- ・ 国際関係（授業でいえば国際法、国際機構論）に興味がある。
- ・ 来年は「EC」を中心に扱う予定です。

キーワードは設立条約、内部機関、加盟国との関係、国際の平和および安全、経済的・社会的国際協力（シラバスより）

どんなことをしましたか？（今年も同じ事をするとは限りませんが、詳しくは今年のシラバスをご覧ください）

三年の春はグループワーク。RF とディベート合宿の準備。夏休みは個別で活動することが多い。

秋は上ヶ原と合同のディベート合宿。グリーンピア三木にて。上ヶ原の学部（文、経済、商）と交流。

12月 RF での発表。進級論文。

年によって違いますが、国際関係・機構の諸問題。安全保障、人権、国内政治。

来年は「EC」を扱う予定。

4月末に三・四回生合同の飲み会。先生も参加します。あとは自由にやっています。

現ゼミ生が興味を持っていること（あくまで一例です。ゼミ生は毎年カラーが違います）

国際問題一般 安全保障 文化 人権 環境 難民 文化遺産 開発問題 核軍縮

この本だけは読んでおいてほしいという本

新聞を読む。国際面を読む。

その他

忙しいですよ。詳しくはシラバスを見て下さい。（先生談）

以下シラバスの内容の一部です。

国際機構の研究に不可欠な基本概念を学び、

現代社会における国際機構の意義について考える。

国際社会の状況変化に、いかに国際機構が対応してきたか、将来への展望も含めて検討する。

日本の役割ならびに今後の課題について考察する。

ゲストスピーカーによる講演・ディスカッション、ゼミ対抗ディベート

サブゼミは、火曜日6限に行う。

その他行事については、ゼミ生の提案のもと実施するので、積極的な参加を期待する。

Trantゼミ

If you want to study hard, come to my seminar, at last you will get a reward.

どんな人にきて欲しいか

第一に（ある程度）英語がしゃべれること。第二にモチベーションがあること。
コミュニケーションと理解が出来ること。読むこと、書くことも大切です。
最初はあまり英語があまり上手ではない人も、モチベーションをもっている人は、二年間でかなり上達します。

どんなことをしましたか？（今年も同じ事をするとは限りません、詳しくは今年のシラバスを見てください）

三回生のときはいろいろなコースト（海岸）エコロジー、エコシステムについて教えます。
毎年異なったエコシステムを勉強するため、フィールドトリップに行きます。
－昨年はエコシステムを見に、オーストラリアグレートバリアリーフ珊瑚礁。
昨年は和歌山に行きました。今年はベトナムに行きます。
来年は南アメリカ？ゼミ生によりますが、どこに行くかは毎年異なります。
三年生のときは毎週講義をします。エコロジー、エコシステムなどについて教えます。
セカンドセメスターは一つのトピックを選んで、プロジェクトを行います。
四回生の春は就活のため、三週間に一回卒業論文のチェック。
一年に二回くらい宝塚の先生の家でハウスパーティー。お酒は飲まないの飲み会には行かない。
三回生と四回生は、一緒にフィールドトリップに行ったり、ハウスパーティーに行ったりします。

現ゼミ生が興味を持っていること（あくまで一例です。ゼミ生は毎年カラーが違います）

Coast development is my particular area. Water pollution or coast ecology.
エコツーリズム、コーストエコシステム

この本だけは読んでおいてほしいという本

読んでおいて欲しいという本ではないですが、読むのなら英語の本でしょうか。でも難しいと思うので
授業では比較的簡単な英語のマテリアルを渡しますので、それを読んでもらうといいでしょう。

過去の論文タイトル（あくまで一例です。およその目安にしてください）

Involvement of people toward sustainable development at coastal depopulated area
Pollution and policy in Mikawa bay
The possibility of wave power generation in Japan
Understanding of red clay pollution in Okinawa and a proposal for improvement
The urbanization in Shanghai and the environmental problem
Sustainable management of freshwater resources in Lake Biwa and Yodo river basin
Impacts by scuba divers and sustainable diving practice; education rather than regulation

中野ゼミ

人生不条理でも、意欲と努力。希望は高く。

どんな人にきて欲しいか

- ・元気な人
- ・人に対して手を差し伸べられるような人
- ・フランス語を学びたい人

どんなことをしましたか？ (今年も同じ事をするとは限りません、詳しくは今年のシラバスを見てください)

春は中野ゼミで何をやりたいかという志望理由書に書いたことを、みんなの前で説明させます。

連休明けには、そのために足りない基礎的な理論を(経済、法、国際関係)プリントを用いて勉強します。

その後は夏休みの合宿に向けての準備。合宿ではRFとか進級論文に向けたテーマ出しを行います。一人一個考えてもらいます。研究のテーマは集約して一つ(もしくは二つ)に絞っていきます。

そしてチームの中で自分の担当を10月ごろに決めてみんなで一つ(もしくは二つ)の論文を仕上げます。

秋学期はRFの準備をします。

地方振興というテーマのもと、フィールドワークを行いました。四つのチームに分かれて、長岡市役所、神戸市、フランスのカルカソンヌ、沖縄に行きました。まずは地方振興のアカデミックな枠組み(災害復興型、拠点開発型、等)の中にこれらの場所を置いてみて、切り口を決めていき、それに対して市役所などがどういう対応をしたかを調べました。

見学旅行に行きました。東京丸の内の再開発プロジェクト。全日空の航空サービス。

御褒美で台湾に行ったことも。国内で色々調べてから行って、研究成果をリサーチコンソーシアムで発表しました。「台湾のWTO加盟による影響」

飲み会・食事会については、先生が飲めない、食べれない、なので、学生が中心にやっています。

現ゼミ生が興味を持っていること (あくまで一例です。ゼミ生は毎年カラーが違います)

東京丸の内の再開発プロジェクト 全日空の航空サービス スポーツをやってる子もいます

この本だけは読んでおいてほしいという本 (先生のお好きな本です。話が合うかもしれませんが)

「星の王子様」をフランス語で読んで欲しい。でも駄目なら日本語でもいいです。

その他、サンテグジュペリの作品「戦争のパイロット」「夜間飛行」「城砦」を。

過去の論文タイトル (あくまで一例です。およその目安にしてください)

観光産業

「WTOのニューラウンドに向けて」

「地域振興における行政の役割」

その他

公務員は、志望にかかわらず受けるように薦めるそうです。

HPの情報がシラバス上にあります。チェックしてみてください。

長峯ゼミ

3回生は討論会メイン、4回生は卒論中心。

どんな人にきて欲しいか

- ・積極的な学生
- ・ゼミを優先してくれる学生

どんなことをしましたか？

(今年も同じ事をするとは限りませんが、詳しくは今年のシラバスをご覧ください)
 「都市政策」と「公共政策」という二つのパートに分かれて研究にとりくむ。
 年間を通して最も大きいイベントは討論会(公共選択学会、ちなみに入賞経験あり。今年は準優勝)そのために夏に二回の合宿を行った。過去の討論会のテーマは「年金」「医療改革」。
 RFでの発表、経済学部の討論会にも参加。パートの全員が一回は話す機会を持てるように。
 論文を書くためのネタ探し。
 三年前にはダムを受け入れた町(岡山県御口町)と、ダムを返上した村(木頭村)に行った。
 二年前には岡山県久世町に年金未納者滞納者の問題。グリーンピア三木に年金で運用の赤字問題。
 兵庫県のしそ町、石川県のつるぎ町に医療費分析。
 ゼミ旅行で沖縄に。基本的に学生のみ。
 同窓会をしました。長峯一門会 二年に一回くらいでしょうか？
 たての交流を大切にします。三回生の指導を四回生に。院生もちらほら。
 飲み会はランダムにやっています。先生も参加することもあります。追い出し、新歓、中間コンパなどありますが、合宿いったら飲み会が基本。

現ゼミ生が興味を持っていること

(あくまで一例です。ゼミ生は毎年カラーが違います)
 いろいろな学生がいるのであんまり気にすることもないでしょう。室内合唱団の指揮をやっているという人も。

この本だけは読んでおいてほしいという本

(ゼミに入るために絶対読まないといけないというわけではありません)
 『心理学 社怪学』(講談社文庫)筒井康隆

過去の論文タイトル

(あくまで一例です。およその目安にしてください)
 歴史的町並み保存のこれからのあり方 広島県竹原の町屋群
 住民による自主的な地域づくりの核心に迫る 三重県四日市市水沢町官妻地区より
 公的年金制度と世代間格差
 兵庫県五色町から探るこれからの地域情報化
 行政における住民の役割 三田フラワータウンパチンコ店問題から住民の本質を探る
 自治体総合計画評価の可能性 兵庫県高砂市の事例から探る

その他

(先生とのお話の一部です)
 入ってきたときと出るときの興味関心は変わりますが、最初に入ってきたときに、興味関心を聞くと、漠然とした経済・都市政策、まちづくりという人が多い。行政改革(道路公団だとか)、政策評価、行政評価。

久野ゼミ

先生は元レンジャー。

どんな人に来て欲しいか

- ・やる気のある人
- ・自発的に問題発見をする意欲のある人
- ・夏休みにフィールドワークに出る時間のある人
- ・時事問題に関心を持てる人

どんなことをしましたか？ (今年も同じ事をするとは限りませんが、詳しくは今年のシラバスをご覧ください)

一回目のゼミで、一般・エコに関する常識テスト実施

フィールドワークとして1週間～10日程度、筑波国立環境研究所(データ入力・解析)・山梨富士山麓の生物多様性センター(データ入力・解析・一般公開時の補助)・シュノーケリングセンター(兵庫県竹野町でシュノーケリング教室の運営補助・海浜のごみ掃除)・沖縄海中公園センター(海亀の世話)等々

毎年、半数くらいはRFへも参加(昨年は「風の谷のナウシカを環境倫理で読み解く」など)

ゼミ旅行は城崎・倉敷などへ

飲み会は2ヶ月～3ヶ月に一回程度

現ゼミ生が興味を持っていること (あくまで一例です。ゼミ生は毎年カラーが違います。あなたの興味がゼミのカラーであることをお忘れなく。)

ごみ問題 持続可能な発展 基本はエコ系

この本だけは読んでおいてほしいという本

新聞(時事問題に関心を持つことが重要)

過去の論文タイトル (あくまで一例です。およその目安にしてください)

日本の原子力政策 原子力発電所の立地地域を訪れて

リサイクルと法律 容器包装リサイクル法の行方

環境ホルモンは安全かそれとも危険か

クルマ社会を存続させるために 低公害車の可能性

尼崎公害訴訟を通しての環境改善策

再生可能エネルギーの現状と課題

その他

以下シラバスの内容です。

現実の行政政策の形成・運用実態を内在的に把握したうえでの、批判的視座の確立と新たな社会を展望することが望まれる。そのため、環境問題を切り口として各省、自治体、民間やNGO等各ステイクホルダーの活動実態を調査するなかで、さまざまな限界に来ている社会経済システムを、総体として把握し、問題点を考察するとともにそのパースペクティブのなかで具体の諸課題を抽出する。

尾藤ゼミ

生命倫理や原子力など科学技術と私たちの生活との関係について考察する。

どんな人にきて欲しいか

- ・くるものを拒まず。
- ・まじめに勉強する人。
- ・ちゃんとゼミに来る人。

どんなことをしましたか？ (今年も同じ事をするとは限りません、詳しくは今年のシラパスを見てください)

春は、科学技術政策に関する講義。初めてでよく分からない人が多いから、文系の人やなじみのない人のために。

秋は、RFでの発表(総合商社の情報戦略)。

例年行くところはバラバラですが、ゼミ旅行では、鳥羽、沖縄。自衛隊の基地の問題。

大阪科学技術センター、スプリングエイトの見学、外部講師を招いての勉強した上で、原子力発電所の見学(他のゼミ生も見学可能)。

食事は年1回、3・4回生と一緒に家に招く。飲み会は学生主導。

現ゼミ生が興味を持っていること (あくまで一例です。ゼミ生は毎年カラーが違います)

個人個人がいろいろなことに興味関心を持っている。

日本における健康食品(ビジネス経営学) インフォームドコンセント(生命倫理) デジタル情報の著作権問題
再生医療 心理学が何故成立しうるか? 癒しの音楽 中東情勢 特許 感染症 マクロ経済 バイオテクノロジー
兵庫における中小企業の技術力

この本だけは読んでおいてほしいという本

あなたの好きな本を読んでください。

過去の論文タイトル (あくまで一例です。およその目安にしてください)

ロックとユースカルチャーの歴史について

ケミカルシューズ産業の競争力強化について

ゲンセ・リヤクの現在とこれからの「私」

21世紀に生き残る航空会社の条件

専業農家は生き残りのために何をすべきか?

駅から見る街づくりの都市空間

CVMによる緑地空間の経済的価値の評価とその結果報告を用いた緑地空間創造政策

その他 (先生とのお話の一部です)

自分の関心のあるテーマを持つのが一番勉強すると思うので、それを早く決めるのが本人に一番幸せ。いきいきと答えられるように。

藤田ゼミ

このクニの今日的課題についての研究。

どんな人に来て欲しいか

- ・自ら学ぶ、やる気がある人
- ・社会に対し、問題意識をもっている人
- ・やりたいこと、方向性のはっきりした人
- ・2年間何を考えてきたのか、それを志願書から感じ取れる人

どんなことをしましたか？ (今年も同じ事をするとは限りません、詳しくは今年のシラバスをご覧ください)

教授からの一方通行という授業のやり方はない。生徒が入れ代わり立ち代りプレゼンテーションをし、ディスカッションをするというスタイル。扱うトピックはジェンダー、NPOなど様々であるが、大きなテーマとしては『このクニの今日的課題について』

3回春学期 輪読など 秋学期 卒論の準備。卒論の序章が進級論文になる。

- ・ゼミ旅行など

合宿は軽井沢で(メインは食事)。産業、サービスの現場見学もしている。今まで行ったところは日本航空の整備現場、放送局、発電所、くろよんダムなど。Back office Back yardを見ることを大切にしている。

- ・ゼミの特色

食事会が多い。縦とのつながりを大切にしている。ゼミが決まった時点で4回生と食事会。先輩が就職ガイダンスに来てくれる。

現ゼミ生が興味を持っていること (あくまで一例です。ゼミ生は毎年カラーが違います)

ゼミの学生はなにかしら打ち込んでいるものがある。

NPO団体 体育会野球部 バスケ部 タッチフット チアリーディング ゴスペルなど

過去の論文タイトル (あくまで一例です。およその目安にしてください)

日本における教育の現状と改革課題

大編成時代の銀行の役割 ~銀行の忘れ物を通して見えてくるもの~

自由貿易による社会的影響の考察

e-ビジネスの可能性

演歌は廃れるか

日本の市民活動における人材育成とその環境確保について ~NPO活動の今後のために~

その他 (先生に論文の指導について伺ったときのコメントです)

『factをもって語らしめよ』学問は科学である。理論、理屈をこねるのではなくデータをもとに科学する。

Something newを持ち、こういうテーマをこういう角度からとりあげるといふ新しい分析方法の模索。

古川ゼミ

何か新しいことを創り出そうとする人を求めます。

どんな人に来て欲しいか

- ・なんでも一生懸命する人
- ・ゼミのために何か一つ貢献できる人
- ・経営学、企業経営に興味を持っている人

どんなことをしましたか？ (今年も同じ事をするとは限りません、詳しくは今年のシラバスをご覧ください)

三回生、四回生のゼミは一緒に行います。三回生は四回生のゼミに出てもらいます。

四回生がどんなことをしているか知ってもらうためです。

四回生は四月から卒論の中間発表。三回生はそれに対する質疑応答。

三年生の春はグループごとにプレゼンテーション、討論。

夏から秋にかけて討論会（慶応大学や専修大学）とRFへの参加。

ゼミ旅行 12月に城之崎にて。

合宿 白浜、伊勢、過去いろいろなどところで行っています。

11月上旬 三大学討論会。東京にて。

食事会や飲み会は頻繁に。先生は参加することが多い。

現ゼミ生が興味を持っていること (あくまで一例です。ゼミ生は毎年カラーが違います)

企業倫理 環境政策と利潤の関係 攻めの知的財産戦略 シニア世代対応マーケティング 社内環境と企業業績

この本だけは読んでおいてほしいという本

何でもいいので、かたい本を一冊読みましょう。

過去の論文タイトル (あくまで一例です。およその目安にしてください)

21世紀エコロジー時代における企業組織体のあり方に関する一考察

健全な企業成長を支えるリーダーシップ

eコマースにおける顧客獲得戦略 テクノグラフィックスの視点から

老舗企業の倒産予知情報

日本企業が導入すべきナレッジマネジメント実践

利益を生み出す環境経営

その他 (先生のお話の一部です)

就職活動の時期もゼミはあります。就職活動に関しては、全体としては一回ごく基本的なことを話します。

以下シラバスより。

担当者はゼミを「一生の友人を作る場」と考えるため、研究はもちろんのこと合宿や課外活動を自ら企画し、それに積極的に参加する学生諸君の応募を希望する。

Midfordゼミ

安全保障の問題を研究しましょう。国際問題に対する色々な見方を学びましょう。

どんな人にきて欲しいか

- ・国際政治に関心が高い学生
- ・東アジアの国際政治と日本の対外政策に関心の高い学生
- ・国際問題をいろいろな考え方から見たい学生

どんなことをする予定ですか？また前の大学のゼミでどんなことをしましたか？

(今年も同じ事をするとは限りませんが、詳しくは今年のシラバスを見てください)

学生の発表プレゼンテーション。リーディングについての発表を論じる。日本語と英語で行う。

ディスカッションのトピックとして考えているのは、

日本の防衛政策、平和意識、アジア諸国の日本に対する不信用の研究、日本の安全保障、防衛ガイドライン、防衛大綱憲法について、アジア諸国の歴史的な記憶と問題、それが日本の防衛政策に与える影響

最初のゼミでは基盤となる知識を教えます。

卒論のアウトラインを書いてもらう。

フィールドトリップについては、一年生のときは国内の博物館に行きたい。歴史的な記憶の政治。広島や靖国のような歴史的な場所に行きたい(予定)二年生のときは、中国・韓国の博物館に行きたい。日本の植民地政策について。

金沢大学にいたときは、「歓迎会」と「忘年会」と「送別会」をしました。

合宿をするかもしれません。研究をするためにセミナーハウスなどで。

この本だけは読んでおいてほしいという本 (先生のお勧め本です)

「Japan's reluctant realism」 Michael Green

その他 (新しくゼミが出来る先生なので個人的な質問をしています。直接ゼミを選ぶ材料ではないと思いますが先生の一面ということで掲載します)

趣味

自然が好き ハイキング 温泉が好き 映画が好き 伊丹十三の「マルサの女」「ミンボーの女」

どこに住んでいますか？

三田市です。

出身

アメリカ

日本語はどこで勉強されたのですか？

10年前に大阪外大で少し勉強したけど、ほとんどは自分で勉強しました。カルチャースクールとかにも通いました。

前におられた大学ではゼミは持たれていたんですか？

四年間金沢大学の法学部の公共システム学科というところで教えていました。そのときゼミを持っていました。

内容やゼミの進め方は上に書いたとおりですが、ときどき自分の研究やテーマを学生に発表したりもしていました。

一年間アメリカのラファイエット大学の法行政学科にいきました。このときはゼミを持ちませんでした。

村田ゼミ

学問を通じて、将来に向けて準備するために具体的に何をするのか話し合う場。

どんな人にきて欲しいか

- ・自分の殻を破ろうとする人
- ・自分自身で学ぼうとする姿勢が強い人
- ・国際関係もちろんそれだけではない興味

どんなことをしましたか？

 (今年も同じ事をするとは限りません、詳しくは今年のシラバスを見てください)

紛争や発展政策に関するケーススタディー。

プレゼンテーション、コミュニケーションの練習。参加することを重んじます。

協力してグループワーク。自主的なグループワークも。

東京の国連機関に行った。NPO 発展政策。フィリピン。

RF に全員参加。RF は進級論文、卒業論文等の研究を頭で整理するいい機会。

飲み会はよくやります。二次会、三次会と盛大にやります。遊ぶときは遊ぶ。

マナーやインターンも励行。よりよい社会人になるための準備です。

(どこのゼミでもやっていることかもしれませんが) 就職や論文に関して、一人一人とカウンセリングを行っています。

学生が何を考えているのか知りたいからです。

現ゼミ生が興味を持っていること

 (あくまで一例です。ゼミ生は毎年カラーが違います)

幅広いです。

国際問題 紛争 ジェンダー 企業倫理と環境 企業と人材育成

この本だけは読んでおいてほしいという本

一般常識のある本。教養ある本。何でも読んでください。感銘を受けたら、今度はそれを説明できるような力を。

その他

ゼミは聴講できませんが、個人的に話しに来てくれたらいいです。

英語に力を入れている学生が多いです。

以下シラバスより。

研究演習の具体性をさらに高めるため、現在、関連分野で活躍しているゲストスピーカーを招き、又フィールドワークも準備している。各自の知識と能力を高揚する糸口は、グループ学習によって培われ、そのプロセスを指導・カウンセリングすることが担当者の最も重要な役割と考える。21 世紀に求められている「価値ある世界市民」とは何か。一緒に考えてみようではありませんか。

Laゼミ

情報の探し方、見つけ方、考え方を教えます。

どんな人に来て欲しいか

- ・テーマに興味を持ってきている人
 - ・都市 (city)、アーバンスタディー
- 私のゼミに来たい人がきてくれたらいいです。

どんなことをしましたか？ (今年も同じ事をするとは限りません、詳しくは今年のシラバスをご覧ください)

授業の形式はプレゼン 質問 ディスカッション

例えば City Life、Transportation problem、Tourismなどを扱った。

旅行に関して

来年は台北かシンガポールに行くかも？

香港に行きました。そこで経験したいくつかの都市や自分で学習したことをレポートに書いた。

その研究をもとにRFにでました。二年間で二つの異なる都市を見た。

一年に二回くらいコンパをしました。

香港旅行について

香港では四日間滞在。大学にいった。通りを歩いて色々な交通機関を見て歩いた。バスや電車。

ニュータウンとオールドタウンを見た。Urban developmentの研究。

現ゼミ生が興味を持っていること (あくまで一例です。ゼミ生は毎年カラーが違います)

Different types of city、Different history、City future or Urban future or, urban proper など様々。

この本だけは読んでおいてほしいという本

特定の本にはこだわりません。情報を見つけることが大切です。

テーマに関するウェブサイトなどに関心を持って下さい。

(関心を持ったら話しましょう)

その他

ほとんどを英語で行いますが、書いたり聞いたりするときには若干日本語を使用することもあります。

(注意：ライ先生は英語インタビュー第一号だったのでちょっと緊張してしまいました。しかも取材はシラバスが出る前です。申し訳ないですが興味ある人は必ずシラバスのチェックをお願いします。)

以下シラバスに載っている正式なキーワードです参考にしてください

Asian and European Cities, Issues in Urban Governance, Urban & Regional Policy, Global Cities, Urban Realities and Future

Ross ゼミ

「コンピューターシミュレーション」を扱います。

どんな人にきて欲しいか

Ross ゼミでは今年度からテーマを変更して「コンピューターシミュレーション」を扱います。
従って、英語が話せて、コンピューターを持っている人が望ましいです。

どんなことをしましたか？ (今年も同じ事をするとは限りません、詳しくは今年のシラバスをご覧ください)

カナダやオーストラリアを取り上げて各国の移民政策に関して勉強しました。
しかし今年からカリキュラムをコンピューターシミュレーションに変更します。
シュミレーションソフトを用いて街づくりやエコロジー政策などを実施し、その効果を実験します。
それに伴いフィールドワークはなくなるかもしれません。
研究発表に関してはゼミ生は毎年必ずRFで発表してもらっています。
また ROSS 宅などでバーベキューパーティーを行ったりもします。

現ゼミ生が興味を持っていること (あくまで一例です。ゼミ生は毎年カラーが違います)

昨年度はやはり移民に関することに興味を持っていました。
しかし今年度からはコンピューターシミュレーションに興味を持つ人が集まるでしょう。

この本だけは読んでおいてほしいという本 (先生のお勧め本)

『An Introduction to Systems Thinking』 by Barry Richmond

過去の論文タイトル (あくまで一例です。およその目安にしてください)

Evaluation of the Japan Exchange and Teaching Program
A Program to Increase KSC Chapel Attendance
名古屋市のごみ非常事態宣言とその対策に係わる政策影響評価
Evaluation of KSC library's book recall program
韓国英語教育政策の分析
Evaluation Report of the Healthy Food Program using Time Series Analysis
喫煙率低下政策の実施とその評価

その他

来年度の生徒は全員、コンピューターシミュレーションソフト「STELLA」を購入する必要があります。
興味のある人は一度ゼミに来るか、RFの発表をご覧ください。

渡部ゼミ

学生と一緒に作るゼミ。

どんな人にきて欲しいか

- ・勉強することが楽しめる人
- ・悩みながら色々なことを見つけられる人
- ・自分が興味のあることを一生懸命、追及し続ける人自分のことだけでなく他人のやっていることに対しても興味を持って考えられる人

どんなことをしましたか？ (今年も同じ事をするとは限りませんが、詳しくは今年のシラバスをご覧ください)

忙しいゼミです。半期で4～5回サブゼミをゼミ終了後に居残ってやりました。

そのときみんなで食事をしたりします。基本的に上品なお食事会をします。

ビデオを使って自分をどう表現するかというワークショップ。論文の書き方。本を読んでの実証研究をする。アンケートをとる、インタビューに行くなど、自分で確かめる。大袈裟かもしれないが「理論と実践の結びつけ」。ソーシャルワークとは何ぞや？統計学、賢い消費者になるために。

現ゼミ生が興味を持っていること (あくまで一例です。ゼミ生は毎年カラーが違います)

幸福とか、幸せとか、どうすればよりよくいられるか？ということ

家族間関係 児童虐待 子ども 老人 リハビリ 親の態度が子に及ぼす影響 アニマルセラピー ミュージックセラピー LOVE フェミニズム 介護

過去の論文タイトル (あくまで一例です。およその目安にしてください)

「子供時代の遊び経験とその後の人間関係について」

「男として、人間として」

「子供と高齢者のための世代間交流」

「障害者福祉団体運営の現状と今後の可能性について」

「筋萎縮性側索硬化症 (ALS) 患者とその家族の支援のために」RF 発表タイトル

その他 (先生のお話の一部です)

卒論はゼミ生が長さを競い合うくらい活発。中には100ページくらい書いた人も・・・。

ある人いわく、「渡部ゼミは勉強サークル」だそうです。　　はなんで××なんやる？それを勉強するためにはどこに行き何をするればいいんやる？それをアドバイスします。自分の主張を相手にどうやって伝えるか。

綺麗な完成物を出すことより、プロセスを経験することを重視。絶対入れるという確約はしません。その人が他の先生が向いているなと思ったら、そちらの先生を薦めたりもします。聴講は可能ですが宿題はやってもらいます。

渡部ゼミは学生と一緒に作るゼミです。

先生のゼミの論文は図書館カウンターで言えば、図書館で閲覧可能です。

また、シラバス上には選考の仕方についての詳しい説明が載っています。チェックしてみてください。

編集後記

今回の企画は、ゼミ紹介ということで、先生方にインタビューをさせていただくことにしたのですが、結論から言うとすごく大変でした。(大変でしたと書いている今現在、実はまだ編集が終わってなかったりするのですが・・・)まず締め切りというものがあるということ。ゼミを選ぶメインである二回生の人に読んでもらうためにはある程度早くに出さないといけないというのがあって、随分内容や、やりたいことに妥協をしたような気がします。30を超える数の先生方にアポイントを取り、かつ上手いこと先生の魅力を引き出し、誌面におこすというのは残念ながら我々の団体の規模とインタビュー&文章能力ではいささか役不足だったかもしれません。

しかしながらこれをやって良かったこともたくさんあります。まずゼミというものに関して本当に真剣に考えられたということ。そして関学総政に本当に様々な研究分野をもたれた素晴らしい先生方がおられるということを再確認できたということ。この企画をやっているうちに関学総政のゼミってなかなかすごいなと思われました。先生方が幅広い知識をもっておられるということは、学生の幅広い興味の分野に関して柔軟に対応できるということ。逆にそのような土壌がそろっているにもかかわらず、教授に本気を出させることが出来るような学生が少ないのだとしたらそれは悲しいことかもしれません。総政のゼミは、専門性の高い学部の「当てはめ型」のゼミ(先生の専門がはっきりしていて、そのことを中心に勉強するようなゼミ)とはちょっと異なるのかもしれませんが。まあ、そういう風に自由度が高いから、選択が大変だったり、入った後のことが心配だったりするんでしょうけどね

関学のゼミについて、案外総政は小さい学部であるにもかかわらず、ゼミ間の交流が少ないように思います。この本がそういう意味で(三回生、四回生、教職員の方が読まれたときに)このゼミはこんなことしてるんだなあとか、この先生は授業受けたことないけどこんなことを研究してるんだなとかいう交流になれば望ましいです。もちろんこの本は二回生の人がゼミを選ぶ際にちょっとでも参考(選択肢を増やす助け)にしてもらえたらというのが本意です。そういう意味でこのゼミ紹介の配列は、取材が速く終わった先生のうち、二回生までの授業が少ない先生から順番に並べていったつもりです。(結局はそれをアイウエオ順にしたんですけどね)

<<二回生のみなさんへ>>

いろいろな視点からゼミをご覧になって、結局のところは自分で見に行ったり、話を聞きに行ったりして、自分で選んでください。そこまでがんばって調べたのだからゼミに入ってからがんばれるでしょう。ぜひ皆さんが(我々自身もですが)残り少ない時間で色々な情報を判断した上で自分にあったゼミを見つけられることを心よりお祈り申し上げます。

最後にこの場を借りて、忙しい中インタビューに答えてくださいました先生方、インタビュアーとして一緒に回ってくれた取材スタッフのみんな、かげながら支援して下さった皆様、そしてこの本を手にとって下さった皆様へ、感謝申し上げます。詳しくは⑩巻のほうで述べますが、残念ながら今回はインタビューをすることの出来なかったゼミの先生方、そのゼミに興味を持っていた方々には、大変申し訳ありません。ぜひシラバスや他の刊行物をご覧になってみてください。

2002年11月22日

関西学院大学総合政策学部二回生 峯松航太

そろそろとレポートがかさばる季節に背筋も凍る想いのする三田の夜更け

文士・開拓者・編集要員

幹部候補生募集中

もちろん幹部じゃなくても
結構です。

協力してくれたスタッフの皆さんご苦労様でした。

取材・原稿担当 & 校正補助

国枝氏（紙を買いに行ってもらった）、芳野氏

取材・原稿担当

生島くん、紀和ちゃん、廉くん、豪くん、晶子先輩、渡辺先輩

取材補助

圭輔氏（たまたま廊下で出会った）

表紙デザイン補助

酒井くん（たまたま隣にいた）

御感想・お問い合わせ等

はこちらまで

psbc1013@ksc.kwansei.ac.jp

(^ ^)_且~~ (ミネマツ)

DISCORD 第三号㊦

(2002年 11月 22日)

発行者

関学総政非公認団体

KSG 出版」

編集・発行責任者

ミネマツコウタ

psbc1013@ksc.kwansei.ac.jp

次号は期日未定

総政にある意外なモノ達 (予定)」